

「自己実現」難しいですねえ・・・調べてみると「人が自己の内に潜在している可能性を最大限に開発し実現して生きること」を元として「人間は、人生に究極の目標を定め、その実現のために努力する存在であるとしたこと」だそうなの。そのまま聞くと難しいですが、「自分が自分らしくモチベーション高く生きていこうよ!」ってことでしょ? めちゃくちゃ大切な事だと思います。そりゃ、この話をする時に「本人の気持ち」は絶対に無視できない要素ですね。だからこそコミュニケーションが重要になってくるんですね。今回別紙で坂井先生の最新刊の注文書が入ってます。「コミュニケーションのための10のコツ」是非是非お買い求めください〜☆ 久田

第58回『わかるように伝えていますか』

自己決定、自己実現とコミュニケーション

香川大学 坂井 聡

障がいの有無にかかわらず、自己実現を図るということは、その人の人生において最も重要なことのひとつであると思います。そのためには、重度の障がいのある人の場合、人生において自己実現していくうえで、その時々ライフステージにおいて連続した支援を受ける環境が整っているか否かが大切になるのです。このとき、支援者が連続した支援を実行するためには、様々な関係機関との連携を図ることは言うまでもないのですが、連携を図る前にしておかなければならない大切なことがあるのではないのでしょうか。

それは、本人や保護者の望みやニーズを引き出すことです。なぜならば、本人の希望やニーズが反映されない支援は、自己実現には至らないと思うからです。

その人の自己実現を図るためには、本人の希望や思い、ニーズはどうしても必要な情報になるからです。そして、本人の望みやニーズを引き出そうとすると、障がいのある人がコミュニケーションするための手段を有しているかどうかはとても重要になります。なぜならば、コミュニケーションするための手段がなければ、自分の意思を伝えることができなくなるため、支援する側が、様々な目標を決定してしまうことになるからです。支援者が、支援者の立てた目標に向けて支援したとしても、場合によっては、支援する側の自己満足に終わってしまう可能性もあるからです。

このように、コミュニケーションする力を育てておくことはとても重要なのですが、これまで教育現場などでは、コミュニケーション手段の確保については重要視されてこなかった現状があるのではないかと思います。

なぜ、このような現状になってしまうのでしょうか。今回は、コミュニケーション手段の確保が遅れる理由について少し考えてみたいと思います。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など